

姫路赤十字病院だより



contents

- 院長年頭のご挨拶
- FAX 予約患者さんのファイルを変更しました
- FAX 紹介の受付時間が変わります
- 患者さんの呼び出し画面が変わりました
- 診療科の紹介 形成外科・放射線科
- 認定看護師紹介
- フィリピン保健医療支援事業報告
- 第2回 ALSOプロバイダーコースを開催
- 研修会開催予定一覧
- 採用・退職

Vol. **7**
2015.1

2015年新春を迎えて



新年明けましておめでとうございます。2015年（平成27年）は未年で、動物にあてはめると羊になります。羊は群れをなして行動するため、家族の安泰や平和をもたらす縁起物とされています。穏やかな日々が続く年でありますよう願います。

2015年はすべての団塊の世代が高齢者に突入する年であり、日本の医療界にあって特記すべき年明けであります。そして2025年、すべての団塊の世代が後期高齢者になりますが、これは日本社会にとり大きな問題であり、世界に類を見ないこの事態を無事乗り切るため、いま医療を取り巻く環境は大きく変化しています。ここ中・西播磨医療圏でも2025年には高齢化率29.6%と推測されています。医師会を中心に私たちも地域医療ビジョン策定に協力して、皆が住みやすい地域の医療に貢献したいと思っておりますのでよろしくお願います。

医療資源は限られており、これからの医療のあり方も、医療・介護関係者のみならず、住民の方々も意識改革を含め様々な変化を求められています。病院完結型から地域完結型へ、医療から介護へ、病院・施設から地域・住宅へといった方向です。昨年4月の診療報酬改定ではこの方向性が明確に打ち出され、姫路市医師会の方針もこの方向で活動されています。私たちの病院も医師会の先生方との連携を今以上に深化させて地域医療支援病院の役割を果たします。わたしたちの病院は長い歴史の間に、限られた医療資源の中、良質な医療を、安いコストで地域住民に提供し続けていたことを職員全てが再認識し、これからの医療に取り組みます。昨年は地域医療連携室を充実させ、紹介患者さんの受け入れや、退院に向けての支援を円滑に行うため、奥新室長を中心に様々なシステムを立ち上げています。その一例としてFAX予約に関して、医師会の先生方、患者さんにとってさらに利用しやすくするため、1週間以内の診察予約、予約日の即時回答、対応時間の延長、土曜日午前中対応などに取り組んでいます。

地域住民の方に安全で良質な医療を提供するため、昨年に取り組んだことを紹介いたします。地域周産期母子医

療を充実するため、従来より稼働しているNICU（新生児集中治療室）に加えて、MFICU（母体胎児集中治療室）も充実し、合併症を有する妊産婦さんや早産が予測される妊婦さん（ハイリスク妊産婦）に安心してお産をしていただける体制を整えました。ダ・ヴィンチ ロボット手術も前立腺癌で順調な稼働をしており、体にやさしい最先端医療を享受していただいております。一昨年、心臓血管外科を開設し体制を整えることができ、昨年からは開心術を開始して稼働しているところです。救急医療体制としては「救急車、紹介救急患者さんを断らない」をスローガンに努力しているところです。その一環として、脳・心臓血管センターをたちあげて、24時間・365日対応をしています。

当院は地域医療支援病院の指定を受け、地域医療における重要な役割を担っております。地域住民の皆様にはかかりつけ医を持っていただき、医師会関係の方々とは緊密な連携を図り、紹介患者さんを積極的に受け入れ、逆紹介もさせていただく方針で地域医療に貢献していきます。かかりつけ医である開業医・診療所・病院の先生方から忌憚なきご指導を賜れば幸いです。本年もどうかよろしくお願いいたします。

院長 佐藤 四三



お知らせ

FAX予約患者さんのファイルを変更しました



最優先患者であるFAX紹介患者を職員が認知しやすくするため、専用ファイルを整備しました。スムーズな診察対応、検査導入に努めます。



FAX予約患者（初診時のみ）
専用ファイル

その他の患者用ファイル

お知らせ

FAX紹介の受付時間が変わります

当院ではこの度地域の医療機関からのご期待にお応えするために紹介枠を広げ、FAX紹介の受付時間を延長するとともに予約のご返信をよりスピーディーに努めるための支援体制を強化することになりました。

1 FAX予約受付時間 平日17時まで → **平日19時まで**
→ **土曜日12時まで**

2 診察日 **原則1週間以内** *但し、検査・診療科・診療内容及び希望が集中する場合には、お日にちを要する場合がございますのでご了承ください。

3 変更日 **9月1日(月)～**

お問い合わせ先 地域医療連携課 Tel:079(299)5514(直) Fax:079(299)5519

お知らせ

患者さんの呼び出し画面が変わりました。

11月からの電子カルテをはじめとする医療情報システムの更新に伴い、外来待合の患者さんの呼び出し画面が変わりました。

現在診察中の患者さんの受付番号

内科	診察中	受付番号	受付状況
1診 田中	1234	9345 9824 9284	
2診 山田	1329	9345 9568 1100	
3診 佐々木	1267	9123 1982 9441	
4診 渡辺	1257	9345 9567 1843	
次の方は受付まで	1255 1278	9345 9821 1229 1298	

まもなく呼ばれる患者さんの受付番号

番号が表示されましたら診察室へお入り下さい



エントランスホールに設置した機械では、受付票に記載されたバーコードをかざすことにより、呼び出し状況が確認できます。



ここにバーコードをかざす



診療科の紹介

形成外科

【スタッフ紹介】

最所 裕司 形成外科部長
 (昭和53年卒／顔面・四肢先天性異常、
 皮膚悪性腫瘍、顔面外傷(顔面骨折)、
 褥瘡、眼瞼下垂)

前場 崇宏 形成外科副部長
 (平成12年卒／皮膚軟部腫瘍、再建外科、
 頭蓋顎顔面外科)

原田 崇史 医師
 (平成20年卒／形成外科一般)



当科の診療内容

形成外科では主に体の表面の疾患に対し、機能はもちろん、より美しい仕上がりを心がけて治療を行います。口唇口蓋裂、四肢奇形、先天性の母斑、皮膚の腫瘍、皮膚がん、糖尿病やリウマチなどによる足潰瘍、長期臥床による褥瘡、さまざまながん治療後の変形に対する再建、やけど、顔面骨折を含む外傷、また肩こりの原因の一つとも言われている眼瞼下垂手術も積極的に行っています。

またケロイドに対する治療は、より再発の少ない治療(切除+放射線照射)も行っています。

レーザーは脱毛レーザー、ルビーレーザー、Vビーム、CO₂レーザーの4種類を設置し、ほくろ、老人性色素斑、顔のしみ、太田母斑、単純性血管腫等のあざの治療などを行っています。

診療体制

現在形成外科専門医2名、医師1名の計3名体制で診療しています。外来は月曜から金曜まで毎日原則として午前中に行っています。

中央手術室で行う手術は局所麻酔の外来手術は火・木曜の午後、入院による全身麻酔手術は月・水・金曜に行っています。

形成外科では、外来有料予約制を導入しています。予約時間を厳守いたしますので、予約の方は待ち時間がほとんどありません。学校や勤めがある方に好評です。時間に余裕の無い患者さんをご利用ください。

(形成外科部長 最所 裕司)

平成25年度 診療実績

患者統計

顔面を除く外傷	49
顔面外傷(骨折を含む)	75
唇裂口蓋裂	25
上記以外の先天奇形	40
良性腫瘍	336
悪性腫瘍	102
瘢痕、ケロイド	36
難治性潰瘍、褥瘡	13
炎症、変性疾患(眼瞼下垂)	67
レーザー(全麻下)	34

診療科の紹介

放射線科

【スタッフ紹介】

三森 天人 放射線診断科部長
(平成2年卒/画像診断)

松原 伸一郎 放射線技術部長
(兼)放射線診断科副部長 事務取扱
(昭和62年卒/画像診断)

武本 充広 放射線治療科部長
(平成3年卒/放射線治療)

富田 晃司 医師
(平成18年卒/画像診断、IVR)

小柳 由季 医師
(平成19年卒/画像診断)



当科の診療方針

現在は3名の放射線診断専門医と1名の放射線治療専門医を含む5名の放射線科医が熟練した専任の放射線技師と協力して高度な総合画像診断、IVR、放射線治療をめざして日常の診療業務を行っています。

診療内容

診断部門ではCT、MRIおよび核医学による画像診断が主体となります。診断用のCTでは64列のマルチスライスが2台稼働しており、MRIでは3Tの装置が稼働し、各領域での画質および診断の向上が顕著です。IVR部門では血管撮影装置と高性能CTを組み合わせたIVR-CTを用いてTACE（肝動脈化学塞栓療法）による肝癌の治療などに大きな威力を発揮しています。放射線治療部門においても本年度より治療装置の更新が行われ、多岐にわたる悪性疾患に対して放射線治療専門医が高度な放射線治療の対応にあたっています。

地域の医療機関の先生へ

地域の医療機関よりCT、MRI、RIといった各種画像診断の依頼、放射線治療の依頼を受けております。本年度は放射線治療装置の更新のために放射線治療が長期間の休止となり、放射線治療の診療実績も通常の半以下に減少しましたが、現在では更新した治療装置も稼働し、効率の改善した環境でより高度な放射線治療を行っています。地域の医療機関の方々にお役に立てるように今後もさらなる医療機器の充実および医療の質の向上に努めていきたいと考えております。今後ともよろしくお願い申し上げます。

(放射線診断科部長 三森 天人)

平成25年度 診療実績

CT検査 (放射線科読影)	14,994
MRI検査 (放射線科読影)	6,462
RI検査 (放射線科読影)	1,043
消化管造影検査 (放射線科医施行)	454
IVR(血管系) (放射線科医施行)	295
IVR(非血管系) (放射線科医施行)	38
放射線治療	165

認定看護師紹介

■ 新生児集中ケア認定看護師

当院では、正式に組織化された地域周産期母子医療センターとして、産科と新生児科（小児科）が連携を取り合い、通常受診の患者さんだけでなく地域の産婦人科からの新生児搬送や母体搬送を受け入れています。

私は、新生児集中ケア認定看護師として、主に NICU・GCU で新生児の看護を行っています。『赤ちゃん大好き』の気持ちから新生児看護を深めたいと思い、2005 年に免許を取得しました。急性期は、生命の危機的な状況にあるハイリスク新生児が多く、慢性期は退院支援を必要とする新生児が多くなります。出生した新生児の救命と共に、後遺症なく発達していけるように、早産児の療養環境を整え、表情・しぐさ・行動から伝えてくれている新生児のニーズを把握してケアに活かしています。また、新生児と家族の絆が形成されるように、サポートし、家族が不安なく「自分の子供を家に連れて帰りたい」と思えるようにスタッフと共に退院支援に取り組んでいます。新生児・家族のためにより良いケアを提供できるように、これからもスタッフや多職種と話し合いを重ねるプロセスを大切にしていきたいと思っています。また、NICU と GCU の連携、周産期病棟の連携強化に取り組み、周産期全体で、将来を担う新生児とその家族を支えていきたいと思っています。今後ともよろしくお願いたします。

(GCU 看護係長 大谷 悠帆)



■ 緩和ケア認定看護師



院内緩和ケアリンクナースとして活動する中で、より専門的な知識・技術をもって患者・家族の看護に活かしたいと思い、2014年6月に緩和ケア認定看護師の資格を取得しました。現在、内科・麻酔科・緩和ケア内科の混合病棟で働きながら週1回の緩和ケアチームラウンドや主診療科との緩和ケアカンファレンスに参加しています。また、井上緩和ケア認定看護師と共に院内外のスタッフを対象にした緩和ケア研修会の主催を行っています。

私は、病棟スタッフとして勤務しているため実践者としての役割が大きいです。日々の看護実践の中で患者・家族とのコミュニケーションを大切に、全人的苦痛へのケアや療養場所の選択や治療における意思決定支援などを行っています。緩和ケアの実践にあたり、多職種との連携が重要であると実感しています。看護師として、それぞれの専門性を理解したうえで多職種と連携し、患者・家族のQOL維持・向上を目指したケアを提供していきたいと思っています。また、急性期病院で働く緩和ケア認定看護師として、地域で支援して下さっている方々に患者・家族の治療期における“思い”をつなぐ役割を担っていききたいと思います。

今後も緩和ケア充実のために頑張っていきたいと思っていますので、ご協力・ご指導のほどよろしくお願いいたします。

(8階東病棟看護師 内 幸恵)

▶ 平成26年度 後期 姫路赤十字病院 研修会開催予定一覧

日程等が変更する場合がございます。ご不明な点や、お申し込みは各問い合わせ先にお電話でご連絡ください。

研修名	内容	開催場所	対象者	定員	開催日程	締め切り	問い合わせ
ICLS西播磨姫路赤十字病院コース	ICLS西播磨姫路赤十字病院コース	大会議室	医師・看護師 コメディカル	20名程度	平成27年1月24日	受付終了	救命率向上部会
看護師緩和ケア研修会 (アドバンスコース)		多目的ホール	看護師 (ベーシックコースを受講された方のみ)	ベーシックコース受講者の中から希望される方	平成27年2月3日、17日	受付終了	総合相談支援課
がんの早期発見に関する 研修会(超音波実技講習会)		多目的ホール	医師、 臨床検査技師等	30名	平成27年2月19日	2月13日	総合相談支援課
第27回地域連携カンファレンス	整形外科・ 放射線科	多目的ホール	医師、看護師 コメディカル等 医療関係者	100名程度	平成27年3月開催予定		地域医療連携課

フィリピン保健医療支援事業を終えて

フィリピン保健医療支援事業は事業地の保健医療サービスへのアクセス向上、地域住民の健康管理能力の強化を図ることが目的です。今回私は、新事業地の立ち上げ要員としてフィリピン共和国 ニエヴァ・ヴィスカヤ州に派遣されました。主に行ったことはフィリピン赤十字職員とともに新事業を軌道に乗せるためのプロジェクトスタッフの採用・育成支援、事業地の事務所の整備支援、プロジェクトの活動計画支援、そして州知事や郡長、村長など政府関係者および住民との関係づくりなどでした。事業のために採用したスタッフは皆、これまで大きな事業には関わったことがな



く、フィリピン赤十字本社スタッフや支部長の力を借りながら一緒に一つずつ進めていくことが求められました。また、事業地であるカヤパ郡まで行くのに車が故障して何日も足止めをされたり、カヤパ郡対象の村々を訪ねるのに何時間も歩いたりもしました。けれども、事業に対する情熱や期待が皆を動かし少しずつ基盤ができ、活動に繋がっています。この事業は2018年3月まで継続して行われる予定です。立ち上げという大切な時期に関わることができとても嬉しく、また関係者の皆様に感謝しています。 (8階東病棟 看護係長 津田 香都)

第2回 ALSOプロバイダーコースを開催して

第2回 ALSOプロバイダーコースを11月15日、16日と2日間に渡って開催しました。

Advanced Life Support in Obstetrics (ALSO) とは、医師やその他の医療スタッフが、周産期救急に対処できる知識や能力を発展・維持し、お互いの「共通言語」として臨床現場で機能させるための教育コースです。今回は近隣の病院から産婦人科医、研修医、助産師の25名の参加がありました。

コースでは、スライドによるレクチャー、各グループに分かれて実地訓練のためのマネキンを使用したワークショップ（吸引分娩、肩甲難産、産後大出血の対応）と最後に筆記試験とマネキンによる実技試験が行われました。

今回の研修で、日頃行っている手技や知識の再確認をすることができ、周産期の救急対応について自信を深めることができました。

全ての産科医療に関わるスタッフの受講をお待ちしています。

(周産期母子医療副センター長 中務 日出輝)



▶ 看護師研修

テーマ	内容	実施場所	受入可能人数	講師	予定日	締め切り	問い合わせ	
周産期母子医療センター合同研修	・超緊急帝王切開シミュレーション	未定	20名	助産師・看護師	1月19日	17:00~18:00	1月7日	教育担当
レベル1対象心に残った看護場面～事例をナラティブに書いて語ろう～	・ナラティブ事例の発表・共有	多目的ホール	20名	助産師・看護師	1月13日	13:00~15:00	-	教育担当
周産期母子医療センター合同研修	・周産期のグリーフケア	未定	20名	助産師・看護師	3月10日	-	3月4日	教育担当

姫路赤十字病院の理念と基本方針

理 念

『わたしたちは、医の倫理と人道・博愛の赤十字精神に基づき、心のかよう安全で良質な医療を実践します。』

基本方針

- 1.患者中心の医療…患者の人権と意思を尊重し、説明と同意により患者とともにチーム医療を推進します。
- 2.災害医療の充実…国内外の災害救護活動に積極的に取り組みます。
- 3.地域との連携…地域と連携し、高度専門医療・急性期医療・救急医療をとおして、地域中核病院の責任を果たします。
- 4.優れた医療人の育成…人間性豊かな医療人を育て、教育・研修・研究の推進により、医療水準の向上に努めます。
- 5.魅力ある職場づくり…職員の働きやすい環境づくりに努め、誇りある職場を創ります。
- 6.健全経営…健全経営を持続し、医療活動を通じて社会に貢献します。

患者さんの権利と責務

患者さんの権利を尊重します。

- 1.安全で良質な医療を公平に受けることができます。
- 2.十分な説明と情報提供を受けることができます。
- 3.他の医療者の意見(セカンドオピニオン)を求めることができます。
- 4.自分の意思で、治療方針を自由に選択・決定することができます。
- 5.自己の診療情報の開示を求めることができます。
- 6.個人情報やプライバシーの保護を受けることができます。

患者さんには安全で良質な医療を受けるために守っていただくことがあります。

- 1.患者さんの健康に関する情報を正確に提供してください。
- 2.診療内容を十分理解し、納得した上で医療を受けてください。
- 3.すべての患者さんが適切な治療を受けられるよう、病院の規則や指示を守ってください。

採用・退職

【採用医師】



内科(第一消化器科副部長)
筑木 隆雄
(つづき たかお)
採用日:平成26年10月1日



産婦人科
依田 尚之
(いだ なおゆき)
採用日:平成26年10月1日



産婦人科
清時 毅典
(きよとき たかのり)
採用日:平成26年10月1日



病理診断科
堀田 真智子
(ほった まちこ)
採用日:平成26年11月1日

【退職医師】

第二脳神経外科部長
松井 利浩

第二産婦人科副部長
田中 理恵

修練医(産婦人科)
江口 武志
柏原 麻子

修練医(リハビリテーション科)
山岸 亮

❖ 編集後記

明けましておめでとうございます。昨年は国内外において、多くの災害に見舞われた一年でしたが、新しい年を迎え今まで以上に、この「姫路赤十字病院だより」を通して当院のことを知っていただき、地域の先生方と「もっとクロス!」し、地域の医療機関が一つの医療システムとなって最適な医療サービスを提供できるよう、またその役割を果たすよう、職員一同より一層努力してゆきたいと思っております。本年もご指導、ご協力のほど、よろしくお願いたします。

(健診係長 黒坂 順子)

